

# 日本海側城柵設置過程に関する考古学的研究 - 越後 2 柵を対象に -

Archaeological research on the construction process of castle fortifications on the Japan Sea side - Focusing on two castles in Echigo -

新潟県埋蔵文化財センター 田中祐樹

## 1 研究の目的

日本海側城柵である越後 2 柵（淳足柵、磐舟柵）については、新潟県長岡市八幡林官衙遺跡における「沼垂城」木簡（第 2 号木簡）の出土により、存在の蓋然性が高まったものの、木簡出土から 30 年余年が経過してなお、その発見には至っていない。一方、この 30 年余りで越後平野を中心に城柵造営期前後（概ね 7 世紀代）の遺跡の調査事例が増加したことで、この時期に活発な人とモノの動きが認められることが明らかになりつつある。

このような調査・研究状況を鑑みたくえて、本研究では越後 2 柵の成立・形成過程について改めて考古学的な手法から明らかにすることを目的とする。具体的には、城柵設置前史にあたる古墳時代、特に後期・終末期の地域動向を手掛かりにしたい。これは、律令国家主導の極めて政治的な事象である城柵設置とそれに伴う柵戸といった一連の対蝦夷政策が、前時代の中央と地方の政治的関係を反映していると考えられる古墳および関連する集落の動態と全く無関係であるとは到底考えにくいことに起因する。このような問題認識をふまえたうえで、本研究では、考古学的な痕跡として把握される、モノの動きとその背景にあるヒトの活動から越後 2 柵の存在にアプローチを試みる。

## 2 研究の方法・内容とその成果

申請書では、3 か年計画の 1 年目として「古墳後期・終末期～城柵設置時期の遺跡消長把握」を実施内容に据えた。しかしながら、実作業の都合から令和 8 年度実施予定の「古墳時代後期・終末期古墳の築造動向の把握」および令和 9 年度実施予定の「考古資料にみられる「柵戸（移民）」的要素の把握と分析」の一部を先行して実施することとした。なお、実際の内容については申請書の内容から一部変更している。

### 2-1 後・終末期古墳情報（内部主体、副葬品組成、年代）の悉皆調査

田中 2024b での成果（副葬品組成の把握）を基に、主体部情報や副葬品年代の特定、既存資料の見直し作業を実施した。その過程で、南魚沼市糠塚 3 号墳で切羽縁金具が出土していることを確認し、同古墳に頭椎大刀が副葬されていた可能性が浮上した。現在、現物資料の確認作業を調整中であるが、注目すべき事例といえる。

### 2-2 古墳消長からみた新たな地域区分案の作成

田中 2024a における地域区分案をベースに、改めて各地域の古墳消長や地域動向、新発見の古墳情報を加味することによって下記の通り新たな地域区分案を設定した。

A 地域（頸城）：後期に前方後円墳が築造される地域。

B 地域（魚野川流域～長岡周辺）：後・終末期に群集墳築造が活発化する地域。

C 地域（越後平野以北）：後・終末期に古墳築造が低調・停止する地域

その上で、B 地域のあり方が本州東北部太平洋側の仙台平野以北の状況と類似、対応する可能性が高く、城柵設置とそれに連動した移民政策に先立つ中央による東国支配のあり方を

示すものとして評価したい。

なお、佐渡における前方後円墳の新発見で、佐渡が頸城地域同様、前期に前方後円墳が存在することが確実視されており、今後更なる検討を要する。

### 2-3 関東系譜の土器の悉皆的調査と未報告資料の資料化

これまで田中が進めてきた関東系譜の土器集成作業が、主に土師器煮炊具を対象としていたことから、新たに土師器食膳具と須恵器を対象に悉皆的調査を実施した。その結果、従来指摘される魚沼地域への偏重性はあるものの、蒲原平野には在地模倣の関東系譜の土器が定量認められる点が把握できた（田中 2025）。また、いわゆる「北関東型須恵器」と呼ばれる関東系譜の須恵器が新潟県域にも僅かながら供給されていることが明らかになった点は重要な成果といえる。加えて、この作業の過程で、魚沼地域の終末期古墳（糠塚古墳群など）出土須恵器の未報告資料を対象に、胎土分析と資料化作業を実施した。詳細は、令和8年5月刊行の土曜考古への投稿を予定しているが、結果としては群馬県北部の群集墳や集落出土須恵器との共通性が確認できた。なお、胎土分析にかかる諸経費は本研究助成の対象外であるため会計報告には計上していない。

なお、本研究での成果については、下記の通り公開している（一部予定含む）

- ・中四国前方後円墳研究会での報告（令和7年11月）
- ・日本考古学協会新潟大会での報告（令和7年10月）
- ・土曜考古への論文投稿（令和8年5月予定）

## 3 研究経過

研究経過については、各作業工程における内容と所要期間を明記した。ただし、各工程は同時並行かつ相互補完的に進捗した。

### 3-1 資料調査（6か月）

#### （1）新潟県域の調査

##### ① 魚沼市郷土資料館

令和7年6月7日に魚沼市郷土資料館にて、研究協力者の小此木真理氏とともに魚沼市古林古墳群出土品の資料調査（実見観察）を実施した。本古墳群からは、象嵌の入った柄頭をはじめ、魚沼地域屈指の内容を誇る豊富な副葬品が出土しており、これまでもいくつか検討を行ってきた（田中・高木 2023 など）ものの、実物資料の確認ができていなかった。今回の実見観察によって、存在を予見していた複数の装飾付大刀の存在が確実視できることが明らかになった。なお、資料閲覧にあたっては、魚沼市教育委員会の高木公輔氏にご指導、ご助言を賜った。

#### （2）静岡県での調査

##### ① 沼津市文化財センターでの資料調査

令和7年12月12日に沼津市文化財センターにて、沼津市内の古墳時代～古代遺跡の資料調査（実見観察）を実施した。特に大規模な後期群集墳として知られる石川古墳群から出土している「金銅装頭椎大刀」が、古林古墳群出土品との比較対象として重要であることから、詳細な観察を行った。

##### ② 藤枝市郷土博物館・志太郡衙資料館での資料調査

令和7年12月13日に藤枝市郷土資料館および志太郡衙資料館にて、沼津市域出土須恵器壺Gの資料調査（実見観察）を実施した。須恵器壺Gは、奈良時代末～平安時代初期に流通した貯蔵具であり、駿河国・伊豆国で生産されたものが、平城京など宮都や東日本各地へ流通したことが判明している（小田2025など）。この壺Gは、新潟県域でも約10点程度出土しており、宮都から城柵設置地域への物資運搬ルート、流通機構を把握するための好材料であることから今回調査を実施した。

### （3）群馬県での資料調査

#### ① 高崎市立観音塚考古資料館での資料調査

令和7年12月14日に高崎市立観音塚考古資料館にて、高崎市内の古墳時代前～後期の集落出土土器の資料調査（実見観察）を実施した。当日は、企画展「剣崎長瀬西遺跡を考える（2）～渡来人も暮らした古墳時代のムラ～」が開催中であり、群馬県内の古墳時代土器の地域色、編年基準資料を把握することができた。

### 3-2 文献調査（12か月）

新潟県内の古墳～古代の発掘調査報告書、関東各県の古墳～古代の発掘調査報告書の悉皆調査を実施した。また、研究必要な文献については研究助成費を活用して購入した。

### 3-3 研究会への参加（随時）

#### ① 中四国前方後円墳研究会

令和7年11月30日～12月1日にかけて、岡山市にて開催された中四国前方後円墳研究会に参加した。研究会テーマは、後期古墳の編年基軸となり得る「馬具」で、最新の研究成果によって少なくとも須恵器1型式単位での画期設定が可能であることが共有された。なお、田中は「環状鏡板付轡の編年と分類 - 単環式を対象に - 」という報告を行い、環状鏡板付轡の編年が後期馬具の中でも年代の指標となり得る可能性について言及した。

#### ② 日本考古学協会新潟大会

令和7年10月25日～26日にかけて、新潟市にて開催された日本考古学協会新潟大会に参加した。田中は、第4分科会「「古代の越後と出羽 - 律令体制の浸透と地域社会 - 」のメンバーの一人として、「越後・出羽の関東系譜の土器」と題した報告を行った。内容は、既述した関東系譜の土器の悉皆調査の成果を基に、日本海側城柵設置地域への関東系譜の土器を入り方から古墳時代終末期～古代にかけての関東からの人の動きを復元した。

#### ③ 第52回古代城柵官衙遺跡検討会（福島大会）

令和8年2月14日～15日にかけて、福島市にて開催された第52回古代城柵官衙遺跡検討会に参加した。テーマは「西久保遺跡を考える - 交通・軍制・地方官衙-」で、鎮兵木簡出土で話題の福島市西久保遺跡を考古学と文献史学両面から気鋭の研究者がアプローチする内容であった。

### 3-4 研究成果のまとめ・公開（3ヶ月）

研究成果は各研究会等で報告を実施している。なお、一部成果については論文投稿も予定しており、詳細は記述のとおりである。

参考文献

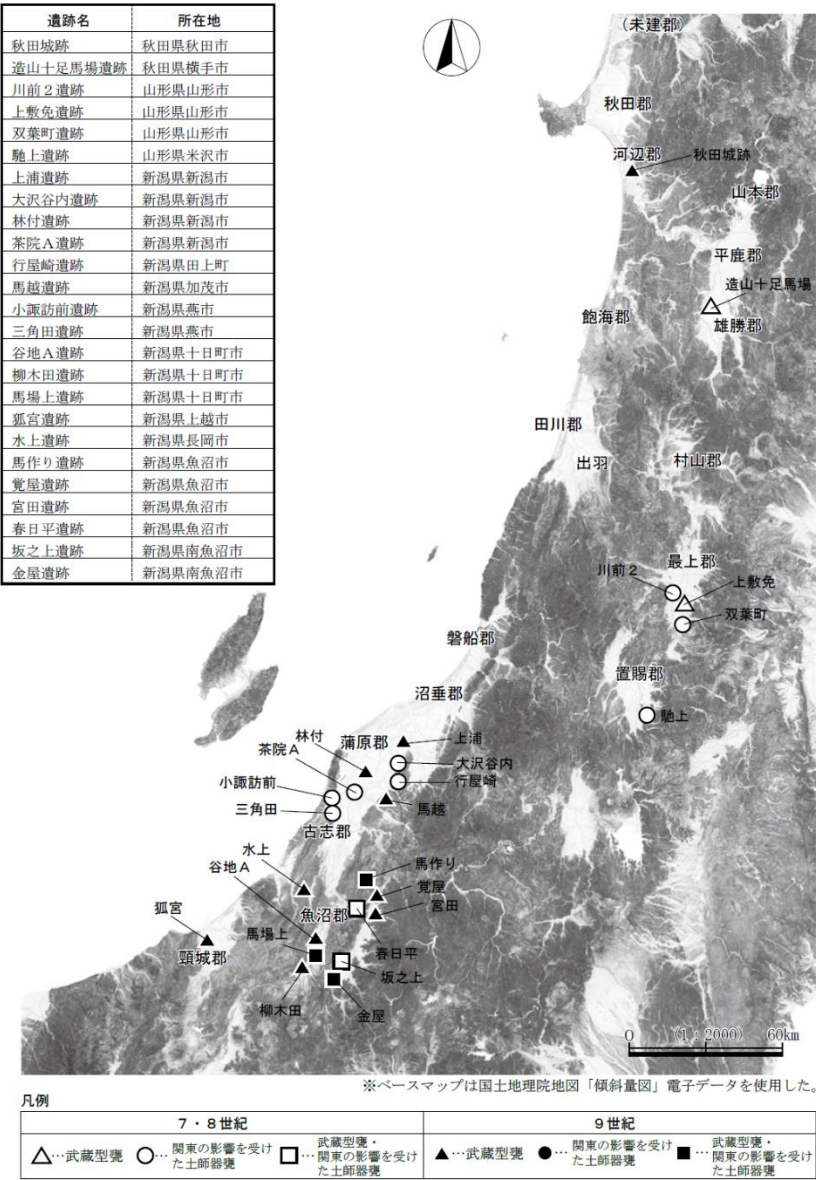
小田裕樹 2025「須恵器壺 G（長頸壺）とカツオ貢納」『東国におけるカツオ貢納関連遺物とその周辺』静岡県考古学会 2024 年度シンポジウム実行委員会

田中祐樹 2024a「後・終末期古墳の動態から考える越国の城柵設置地域」『越国の未発見城柵を考える』2024 年度新潟県考古学会秋季シンポジウム 新潟県考古学会

田中祐樹 2024b「副葬品・副葬行為からみた古墳時代終末期の新潟県域」『副葬品から考える古墳時代終末期』東北・関東前方後円墳研究会

田中祐樹 2025「越後・出羽の関東系譜の土器」『越佐から見た列島の交流と地域社会』日本考古学協会 2025 年度新潟大会資料集 日本考古学協会 2025 年度新潟大会実行委員会

田中祐樹・高木公輔 2023「新潟県魚沼市古林古墳群出土品の復元」第 19 回古代武器研究会ポスターセッション 古代武器研究会



日本海側城柵設置地域における関東系譜の土師器煮炊具の分布（田中 2025）